**魚類**

**Barred mudskipper / *Periophthalmus argentilineatus* / Minami tobihaze / ミナミトビハゼ**
英名のmudskipperの通り、マングローブ林の砂泥地に生息する魚で、カニやミミズなどの小動物を捕食する。深い水深を避け、マングローブの低木やコンクリートの護岸に登ったりする。貯水できるエラがあり、皮膚呼吸もできる。メスの方が大きく、体長は10cmにもなり、オスは平均5cmほどである。ミナミトビハゼの眼はカエルのように突き出ているが、怖がらせると引っ込める。様々な動作ができ、その中でも胸ビレを使って漕ぐような動きで、這って移動することもできる。また、尾をバネのように畳んで広げることによって、1mの高さまで跳ねることができる。

**Ryukyu ayu fish / *Plecoglossus altivelis ryukyuensis* / Ryukyu ayu / リュウキュウアユ**
リュウキュウアユは奄美大島の固有種で、内地でよくみられる通常のアユより若干小型の亜種である。1978年までは沖縄の海にも生息していたが、その後沖縄では絶滅した。現在は奄美大島の限定された川のみに生息している。リュウキュウアユは最大20cmにもなり、銀色の体に所々別の色も見られる。冬には河口近辺で卵から孵化し、海へ渡り、稚魚になるまで成長する。4月から5月にかけて川を上り、12月から2月の間滞在し、卵を産むため下流後、その生涯を終える。日本ではアユは食用魚として好まれているが、亜種のリュウキュウアユは絶滅危惧種とみなされ、生存のため保護が必要である。